

今回は、学校推薦型選抜を活用した進路実現の報告その4です。

◇ 岐阜大学地域科学部の合格体験記（石井 晶さん）です！

私はこの度、学校推薦型選抜で岐阜大学地域科学部に合格しました。推薦入試で合格を掴むことができたのは、この3年間様々な活動にたくさんチャレンジしたからこそだと実感しています。その中で私が高校生活で取り組んだFRH活動について記しておきたいと思います。

関高校家庭クラブでは、米粉研究に力を入れています。私は家庭クラブ委員ではありませんでしたが、自分自身の希望や周囲からの誘いもあって、米粉の普及活動に携わるようになりました。校内で実施された米粉・米粉パスタ料理コンクールの中から選ばれた一品を、地元カフェで期間限定メニューとして採用していただき、同時期に米粉料理のレシピカード作成、店頭配布を実現することができました。さらに岐阜市のコミュニティFM「てにておラジオ」に出演し、米粉普及活動の成果を地域に発信する機会を得たり（左下写真）、オンラインでの国際交流において、米粉料理の紹介や米粉の魅力をオーストラリアの高校生に伝えたりしました（右下写真）。

「米粉普及」という一つのキーワードから活動の幅が大きく広がり、地域の方々と繋がることの重要性に気付いたことが自らの進路決定につながりました。



米粉普及活動の他にも、以下の活動を実践しました。

- ・食品ロス啓発ポスターの作成、配布(2年次の個人研究)
- ・第2回FRH講演会(オンライン開催)の座談会参加
- ・屋久島学ソサエティへのオンライン参加(米粉に関する発表をしました)
- ・合掌集落スタディーツアーへの参加
- ・校内での探究活動発表会
- ・第1回せきてらすのまなびかふえでのプレゼンテーション
- ・白川郷学園とのオンライン交流会

ジャンルを問わず少しでも“やってみたい!”と感じたことには何でも挑戦しました。ここで「今を生きる」皆さんにどうしても心に留めておいてほしいことがあります。それは、「今、自分にできることは何かを考える」ということです。

恐ろしい事態を突如として引き起こした未知のウイルスは、現在でもなお、私たちの生活を制限し苦しめ続けています。

ですが、コロナ禍でもできることはたくさんあります。実際、私が参加したFRH活動の大

半がオンラインシステムを活用したものでした。文章中で「オンライン」を強調しているのはこの事実を知っていただきたいからです。コロナウイルスによる制限の影響で目的を見失っている人、きっといると思います。過去を振り返って、「昔はあんなことできたのに今は…」と比べたり「これからどうすれば良いんだろうか」と悩んだりしている人も少なくないでしょう。

しかし、過去や未来のことに思いを馳せるだけでは事は何も進みません。このような状況下だからこそ、自分が今できることを考え、行動に移すべきだと思います。

コロナ禍のただなかに置かれた高校2年の私にとって、「今できること」を考えたとき、真っ先に浮かんだのは「挑戦」というキーワードでした。色々な経験に触れてみようと思いつき積極的に取り組んだFRH活動は、私自身の視野やものの見方を大きく変えてくれました。そして、FRH活動の中でたくさんの人たちと繋がることができ、このようなつながりがあるからこそ今を生き活きと生きていられるということを実感しました。

明日からの生活を変えるかどうかはあなた次第です。関高校は学ぶための環境が整っており、高校生活で数多くの挑戦をするのもってこの場です。私のように「何でもかんでもやってみよう」とは言いませんが、FRH活動を通して学びの機会を是非とも広げてみてはいかがでしょうか。

皆さんがFRHを通して地域に貢献する人材となり、将来への道を切り拓いていられることを心から期待しています。つたない文章を最後まで読んで下さりありがとうございました。少しでも参考にしていただけたら幸いです。



ウスビ・サコ京都精華大学長を囲んでの座談会



「まなびかふえ」での研究発表



合掌集落スタディツアー



屋久島学ソサエティへのオンライン参加